

令和2年度 自己評価表

教育方針	教育基本法の精神にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点目標	ものづくりから人づくりへ — いい汗をかこう — 足もとをしっかり見つめ、広い視野と深い思考で、今を生きよう 1 確かな学力の定着と専門的実践力の育成 2 基本的生活習慣の確立と自律心の育成 3 豊かな人間性・社会性の育成 4 望ましい勤労観や職業観の育成 5 安心・安全な学校づくりの推進
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
工業教育	えひめ次世代マイスター育成事業の充実	インターンシップやデュアルシステム、マッチングフェアの充実と、えひめ次世代マイスター育成事業を活用した地域産業界との更なる連携を図る。	B	新型コロナウイルス感染症のため、実施できなかった事業もあるが、限られた中で工業各科が積極的に実施した。	インターンシップやデュアルシステムを通して、早い時期からの専門的職業人の育成を図る。
	ものづくり教育の推進	各種のものづくり大会に積極的に参加し、外部支援団体・企業との連携を図り、生徒・教員のものづくりに関する技術・技能の向上に努める。 ものづくり企業を積極的に訪問し、匠の技教室の実施によって、生徒・教員のスキルアップを図るとともに、専門教育の更なる充実に繋げる。	B	新型コロナウイルス感染症のため、多くの大会等が中止になったが、限られた中で生徒・教員の知識や技術が向上した。	企業・外部支援団体とのさらなる連携を深め、指導体制の充実を図る。
	資格・検定取得の奨励	各種の検定試験等に積極的に挑戦させるために、授業や放課後の資格取得における指導体制の充実を図る。	B	新型コロナウイルス感染症のため、機会が減ったが限られた中で、生徒・教員のスキルアップを図り、専門教育がさらに充実した。	実施方法や実施時期などを再検討し、今後のさらなる充実を図る。
学習指導	基礎的・基本的な学力の定着	生徒の実態を把握し、基礎学力の定着と自主的な自己学習力の育成を図る。	A	工業各科において、授業や放課後・休日の充実した補習によって、検定試験への取組の成果が例年以上に表れている。	資格・検定ごとの指導方法を再検討し、授業・補習におけるさらに効率的な指導体制の確立を図る。
	教科指導の充実	校内外の各種研修会に積極的に参加し、教員の実践的な指導力の向上を図る。 生徒による授業評価を実施し、授業内容と指導方法の改善を図る。	B	学習意欲に欠け、基礎学力の定着がみられない生徒の指導を、根気強く継続的に実施することにより、学力向上が見られる。	各科の取組だけでなく、学校全体として共通の認識のもと、時間の有効活用を検討し学力の定着に努める。
	図書室及び図書利用の促進	図書室利用の啓発に努め、読書会や集団読書の充実を図る。(生徒一人当たり年間貸出冊数3冊以上)	B	ICT研修の機会が増え、リモート学習を行う教員の資質向上が図れた。	研修会で培った技法を活用し、教科指導に生かしていく。
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動(運動会・文化祭・クラスマッチ等)への積極的参加と主体的な運営に努める。	B	全教科、全校生徒を対象に実施した。グラフ化にすることにより指導等の改善につながっている。また、生徒自身、学習方法等について見直し、改善点が図れる。	評価の結果をもとに授業の方法など、改善点を検討する。生徒自身が振り返ることにより反省だけでなく、今後の取組の参考にさせる。
	部活動の活性化	部活動加入率90%以上(A:70%以上 B:69~60% C:59~50% D:49~40% E:40%未満)とし、県総体140名以上、四国総体4競技以上を目指す。	B	図書館だよりを毎月発行するなど、図書館利用の促進に努めており、現在の貸し出し冊数は2.0冊となっている。	図書委員会をさらに充実したものにし、生徒の読書に関する意識を高めていきたい。
	ボランティア活動の推進	各種ボランティア活動への自主的・積極的な参加を促し、奉仕の心の育成を図る。	B	新旧生徒会役員とも主体的に学校行事の企画運営に取り組むことができた。新型コロナウイルス感染症の拡大防止に細心の注意を払いながら実施することができた。	感染防止対策を取りながら、できる範囲の活動を企画、運営できるようにしたい。
生徒指導	問題行動の防止	全教職員の共通理解・共通実践の下、生徒理解に努め、生徒の小さな変化も見逃さず、問題行動を未然に防止する。	B	加入率は100%であったが、県総体、四国大会をはじめ、全国大会も中止となった。3年生の代替大会を開催できた競技もあり集大成を飾ることができた部活動もあった。	部活動の再開もできないときは学校全体が暗ささえ感じたが、現在は前を向いて取り組む生徒が多いと感じる。様々な活動を活発化させられるように取り組みたい。
	安全教育の推進	交通規則の遵守やヘルメットの着用など、交通安全意識及びさまざまな場面における「命を守る」意識の高揚を図る。	B	対外的行事が中止となる中で、文化祭において募金活動などのボランティア活動に取り組むことができた。	コロナ過で生活していると、マスクや3蜜を避けるなど、周りの人たちへの気配りをしながら生活できる態度が身につけてきていると感じる。さらに主体的に活動ができるようにしたい。
	基本的生活習慣の確立	生徒の進路実現のために、挨拶、身だしなみ、時間及び健康の管理に関する指導を継続して行い、規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立を図る。	B	集会等を開きづらい状況もあり、問題行動を事前に防止するために必要な注意喚起を十分にできなかった。	生徒が登校できない期間が発生しても、ある程度の生活指導や生徒指導ができるよう、その方法について研究を進める。
			C	重大事故は発生しなかったが、交通ルールやマナーを守らない生徒が見られ、接触事故も発生した。	集会や講話を開くのが難しい分、街頭での交通指導をさらに充実させるなど、加害者にも被害者にもさせない指導をしていきたい。
			B	年度当初にルールを徹底させることが十分できず、服装指導等で問題が発生したが、2学期以降は例年通りの指導ができた。	感染症に対する不安からくる欠席や遅刻と、怠惰からくるものとの区別を明確にし、毅然とした指導に努めたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育相談	充実した学校生活の支援	ホームルーム担任や養護教諭、科、専門機関との連携を密にし、生徒の悩みの克服を支援する。	B	児童虐待の事案や不登校傾向の生徒の指導について、共通認識を図りながら対応することができた。	引き続き各先生方と連携を取りながら、生徒や保護者の意向も勘案しつつ、適切な指導を継続したい。
		特別な配慮を要する生徒の実態把握に努め、学校生活を支援する。	B	配慮を要する生徒の情報を職員会で提供するなど共通理解に努めた。特別支援学校と連携し、その助言を支援に生かした。	生徒指導連絡会でも、タイムリーな情報を提供し職員相互の共通理解に努めたい。
人権・同和教育	現職教育の充実	生徒の自己実現に向け、14項目の共通理解・共通実践を図る。教師自らが人権感覚を磨き、あらゆる教育活動において生徒の人権意識を高めようとする教員集団作りを目指す。	B	人権・同和教育HR活動のための事前担任会で、人権意識を高めるための教材をより多く提示することで、教員自らが人権感覚を磨くことに対して成果があったと思われる。	教員同士が連携を取り合い、お互いが向上できるよう、情報交換を密に行える機会を設け、支援していきたい。
	望ましい集団活動の推進	人権委員会を活性化し、様々な活動を通じて、差別を許さない集団作りを目指す。市内各校と情報交換し、学んだことを生徒全体にフィードバックする。	B	人権委員会で様々な人権課題について考える機会を持つことができた。市内各校との合同学習は行えなかったが、校内で啓発チラシを人権委員自らが配布することで、差別を許さない集団作りにつながった。	人権委員会が活性化し、生徒全体の人権意識が高揚するための手立てを人権委員自らが考える機会を設けていきたい。
進路指導	進路意識の高揚	「キャリアパスポート」、進路希望調査、進路相談等を通して、より具体的に進路に対する意識を高めさせる。他課や外部との交流を深め、生徒の勤労観や職業観を育成する。	B	具体的な進路希望調査を2年の3学期に1回、3年の1学期に2回実施することにより、意識の高揚を図り、進路希望の把握に努めた。また、キャリアパスポートを利用した進路指導や積極的な進路相談も実施できた。	授業、学校行事、各種検査、ホームルーム活動を通して、早い時期から自分の適性を掌握し、将来の進路についてより具体的に考えさせる。キャリアノートのより積極的な活用方法を検討する。
	就職・進学指導の充実	生徒一人一人の適性や能力の把握に努め、キャリア教育の充実を図る。学校紹介による就職内定率100%、進路希望達成率100%(A:100% B:99~95% C:94~90% D:89~85% E:85%未満)を目指す。	B	就職については、1名が未決定であるが、大学進学からの進路変更で出願はしているが、試験地が東京のため、選考試験実施が保留となっている。進学については、1名は選考日が2月である。もう一人は中国の大学進学を目指し、出願中である。これらを考慮すると、コロナ禍ではあるが、ほぼ全員の進路が実現しつつあり、概ね、Aの評価と言える。	挨拶やマナーなど学校生活の中で学ばせること、基礎学力の向上、コミュニケーション能力の育成に努める。進学希望者には、1・2年次からオープンキャンパスなどに参加させ、意識の高揚を図る。就職希望者は、地場産業について早い時期に調べさせ、職業観を身に付けさせる。
情報管理	ICTの活用及び情報モラル教育の充実	授業における各教科の有効的なICT機器やWi-fiの活用方法や情報モラルに関する効果的な指導方法を研究する。	B	オンラインにおけるICT機器の活用(ロイノート、Zoomなど)について研修を行い、授業や実習等において取り入れる意識付けができた。	更なるICT機器の積極的な活用に関する啓発活動を行う。
	セキュリティ及びデータ管理の徹底	新しい情報管理システムの導入に伴い、使用方法、個人情報漏えい防止対策、セキュリティに関する啓発をさらに強化する。	B	新しい情報管理システムを活用したデータの取り扱いに関しては意識が高くなってきている。セキュリティに関しても同様である。	新システムに対応できるスキルの向上とともに、個々の意識を高める活動を積極的に行う。
保健厚生	健康管理能力の育成	保健委員会活動を通して、心身の健康管理に対する学びを深め、自己の健康管理ができる生徒の育成を目指す。	B	委員ひとり一人が責任を持ち、クラスごとの感染症予防対策がしっかりできたと思う。	生徒自身で考え行動できるように指導をしていきたい。
	防災意識の高揚	防災学習、避難訓練の内容を見直し、防災意識の昂揚に努めるとともに、安全点検を徹底して、施設面でも危機管理を行う。	B	感染対策に配慮し、避難器具体験、消火器使用等の実践的な訓練が実施できなかったため、基礎行動を重視する内容となった。	防災情報活用のための、更なる啓発に努めたい。
渉外広報	PTA活動の活性化	生徒数の減少とともに保護者の数も減っているが、学校行事やPTA活動を現在の活気あるものを今後も維持していく。	B	新型コロナウイルス感染症により、ほとんどの行事が中止となり十分になされたとは言えないが、理事会や、書面での採決など協力していただくことができた。	新しい生活様式に順応したPTA活動を再考するとともに、感染防止対策を取りながら、できる範囲の活動を再開させたい。
	きめ細かな情報提供	学校新聞や毎月のPTA通信の内容が形骸化しないよう、新しいものを導入する。	B	今年度、いろいろな行事が中止や縮小となった中、PTA通信(月1回)・今工新聞(年2回)では生徒作品や生徒の活動、部活動での活躍した生徒の声を取り入れて、発行することができた。	毎月のPTA通信はHPに掲載しているが、紙媒体での情報提供も継続して行う。
		体験入学や出前講座、ものづくり教室など、さまざまな活動を通して本校の魅力を外部に発信し、志願者数増加へつなげる。	C	新型コロナウイルス感染症のため実施できなかった活動もあるが、限られた中で積極的に魅力発信を行った。	志願者数の増加につながるよう、ツールの見直しを図りたい。
学校事務	人事管理の適正化	人事、給与、手当等の適正な支給と認定を行う。	C	実績手当の支給誤りがあった。	2人以上によるチェックを確実にを行う。
		心身の健康管理と事故防止を図る。	B	検診を推奨するとともに産業医や教職員厚生課と連携に努め、事故防止を図ることができた。	方策の見直しを図るとともに継続した事故防止に努める。
		危機管理意識の高揚に努める。	C	全体への声掛けやチェックリストの活用などによる意識の高揚を図ったが、十分とは言えない。	機会あることに声掛けをしたり研修会を設けたりして意識の高揚に努める。
	経理事務の厳正化と効果的な執行	各会計の計画的な予算執行と迅速かつ適正な事務処理を行う	B	年間予定等から、各事案に関わる必要物品等を事前に聴き取るなど、早めに備えることができた。また、新型コロナウイルスによる変動にも各会計で計画的に対応した。	可能な限り過不足が出ないよう綿密な予算管理に努め、予算を最大限に活用する。
		経費節減に努める。	C	デマンド監視装置の通信エラー時に、最大デマンド値が上がったことで電気料金が値上がりした。	教職員の節電、経費節減意識が高まるよう働きかける。
	文書管理の適正化	迅速な収受と適切な保存を行う。	B	重要及び急ぐ内容のものについては、早急に管理職に伝うことで、迅速に取り扱うことができた。	引続き迅速かつ適切に取り扱う。
施設・備品の適切管理	個人情報の厳正な管理を行う。	B	管理規定に則り、適切な管理を行うことができた。	引続き適切に管理を行う。	
	学校内外の潜在危険個所の除去と事故防止を図る。	B	教員と連携することで、日常的に危険箇所の把握を行い、事故の発生を防ぐことができた。また、県教委への交渉により、近隣住民からの苦情が多かった職員住宅の整備を行った。	引続き教員の協力も得ながら、校内巡視により危険個所の把握に努める。	
教職員	ICTの活用による業務の負担軽減	校務系の充実と活用によって、文書処理や会議等の時間の短縮を図る。	C	教員と連携をとりながら、屋外照明の設置や、施設の修繕を迅速に行った。また感染症対策のための環境整備に努めた。	引続き教員の協力も得ながら、校内巡視により危険個所の把握を行い、より良い教育環境となる提案が行えるよう努める。
	効率的・効果的な活動の推進	計画的な活動によって休養日を確保したり、環境条件に配慮した活動によって安全を確保したりして、担当者の心身の負担を軽減する。	C	校務系の活用により、文書処理や情報の共有をスムーズに図ることができるようになった。その一方で、新しい事項についての対応が加わるようになった。	ICTに関する研修の機会を設け、工夫された活用の推進に努める。
				各休養日の確保は実践できたが、新型コロナウイルス感染症による各大会の中止や延期への対応、調整に追われたこともあり、負担軽減が十分になされたとは言えない。	新しい生活様式に順応した教育活動に向けて柔軟な対応ができるような体制の構築に努める。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。